

特攻の史実を 後世に残す②③

知覧特攻平和会館では、「知覧からの手紙」（知覧特攻遺書）を、平和を願い、知覧から世界へ語り継ぐため、ユネスコ世界記憶遺産登録を目指しています。

出撃10分前

両親に書き綴った最後の言葉

袴田 治夫 少尉

出身地 静岡県菊川市
第106振武隊（享年18歳）

18歳袴田少尉が、2度目の特攻で出撃する際、愛機の翼の上で、エンジンの爆音が轟く中、出撃10分前の直前の状況や心境を父母に詳しく走り書きした絶筆です。



絶筆

度々最後々々ト書キマシタガ今度こそ最後デアリマス。男ト生レ愛機ト運命ヲ共ニシテ、敵艦ニ突入出来得ルコトヲ無上ノ光榮ト致シマス。三年間ノ教エ有難ウ御座イマシタ。治夫ガ特別攻撃隊トシテ征クコトノ出来得ルノモ皆オ父サンオ母サンノ御陰デアリマス。治夫ハニッコリ笑ツテ死ンデユキマス。天皇陛下ノ爲ニ、アノ憎イ米鬼ヲ三途ノ土産物ニシテ、オ母サン泣キタカッタラ、泣イッテ下サイ。治夫ハアメリカノ五千人余リノ母ヲ泣カセルノデス。既ニ我が愛機ハ今日ノ体當リヲシユクスル如ク物スゴイ爆音ヲ立テテヲリマス。モウ出発デアリマス。アト十分位シカアリマセン。デハ隊長殿ニ報告シテマイリマス。報告モ、終エマシタ。イヨイヨ愛機ニ搭乗デアリマス。今翼ノ上デ走り書キヲシテヲリマス。ステニ、戦友ハ飛行機ニ乗ツテヲル。デハ自分モ搭乗シマス。サヨウナラ。オ母サン、オ父サン、トコシエニサヨウナラ。

天皇陛下 萬歳

懷シキ我子愛機ノ翼ノ上デ

治夫

知っていますか？ 指定文化財⑦

永田の田の神像



田の神は、田んぼの豊作を願って建てられたものです。川辺町永田の田の神は、江戸時代の享保九年（一七二四）に建てられたもので、南九州市内では一番大きいものです。永田地区に広がる水田を、今も変わらず見守っています。

ミュージアム知覧企画展

よひんぼ「絵巻」の世界へ

— 穎娃と知覧に伝わる2つの神事絵巻 —



12月14日(日)まで開催
場所:ミュージアム知覧 特別展示室 ※毎週水曜日休館
料金:小中学生 200円、高校生以上 300円 (ミュージアム知覧単独券)
小中学生 400円、高校生以上 600円 (知覧特攻平和会館共通券)
●展示解説講演会 11月30日(日) 午後1時30分~3時
鈴木彰 立教大学文学部教授